

総務文教常任委員会だより

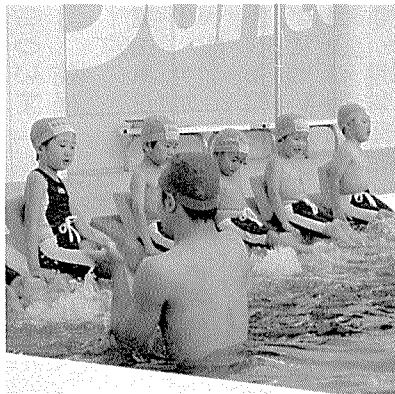
温水プールを

民間へ無償譲渡

滝川市温水プールは昭和60年に国庫補助金の交付を受けて開設し、多くの市民に利用されてきましたが、市の財政負担が重く、施設の老朽化も進んでいることから、新滝川市活力再生プランでは、民間に委託する方針が示され、4回にわたる総務文教常任委員会への報告後、臨時市議会において無償譲渡を可決しました（有償の場合は補助金の返還が必要となる）。経過としては6回の選定会議の中で公募、現地説明会、申請者プレゼンテーション及びヒアリング等により「株式会社滝川スポーツクラブ」に決定しました。公設プールとしての役割を残すため、市の補助金により、3コースを市民コースとして確保しており、学校のプール授業にも利用できます。今後15年間、市が運営管理を行った場合の2分の1の費用で温水プールが継続できると試算しています。

8月30日には市の理事者・議員をはじめ多くの関係者が出席し落成式が行われました。

既存のプールを含む館内はリニューアルされ、新たに設置されたトレーニングジム、ダンススタジオ等、素晴らしい施設となりました。浴室やサウナも設置され、プールばかりでなく、多面的な利用が可能となりました。市民の皆様には喜ばれる施設となることを願っています。是非一度見学されてみてはいかがでしょうか。



▲滝川スポーツクラブ「サンテ」

滝川市教育支援センター開設 空知教育センター移転

平成21年3月に道立滝川高等技

術専門学院が閉校したことに伴い、跡地利用について検討してきました。

当該地区が文教地区ということとを考慮し、市の教育が抱える課題を解決するために、旧道立高等技術専門学院跡地の有効活用を決定しました。國學院大學北海道短期大学部と隣接し、教育連携しやすい環境である立地条件を生かし、教育委員会の掲げる課題①空知教育センターの移転②適応指導教室の移転③本町体育館の機能移転④空知川ソフトボール場の移転等を考慮した活用方針を決定しました。

空知教育センターは、昭和43年に空知管内全市町村が共同で行う教職員研修、調査研究機関として設置以来43年の歴史を刻み、教職員の資質向上に大きな役割を果たしてきました。施設の老朽化・耐震化、センターのあり方等を検討し、教職員の指導力の向上、研修の充実を図るため移転を決定しました。

学校適応指導教室を移転

不登校については、未然防止、早期対応、早期発見、一人ひとりの状態や状況に応じた支援が必要

です。ホームグラウンド化することで児童・生徒が登校しやすくなることや、相談室を設け、個に応じた指導や、保護者を交えた指導が可能となります。

また、施設内体育館や和室、会議室、屋外等を利用することで、学習環境が拡充されます。

本町体育館の機能を移転

勤労青少年ホーム廃止後も本町体育館として継続する方針でしたが、耐震化など改修工事費が予想をはるかに上回ることから、高等技術専門学院跡地利用が有効と考え、機能を移転したいとするものです。ミニバレー2面、バレーボール1面、バスケットボール1面、バトミントン2面、テニス1面、卓球3台の利用が可能です。

ソフトボール場を移転

ソフトボール競技の公式ルールの変更や、雪捨て場の関係から、移転を決定したもので、来年春には2面のソフトボール場が完成予定です。

教育支援センターは、8月21日に空知管内の理事者・教育長、市の関係、来賓等の出席の下オープンしました。